

盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針（概要）

目指す姿

- ① 新たな販路として海外市場が認識され、輸出に取り組む生産者が増加している。
- ② 継続的・安定的な輸出が行われている。
- ③ 輸出により生産者の所得が向上している。

基本方針１ 関係団体と連携した幅広い輸出支援

岩手県やジェトロ、いわて農林水産物国際流通促進協議会、ＪＡなどの関係団体と連携しながら、海外バイヤーの招聘やプロモーション活動などを行い、輸出促進を図るほか、セミナーの開催などを通じて、輸出を進める上での必要な情報を広く提供し、輸出に関する意欲の喚起や機運の醸成を図ります。

また、盛岡市６次産業化等スタートアップ支援事業などを通じて、海外への販路拡大に向けた取組を支援します。

■ 主な取組

- ・「いわて国際戦略ビジョン」の基本戦略に基づいた海外市場への展開（県、市）
- ・バイヤー招聘やプロモーション活動、商談会など（いわて農林水産物国際流通促進協議会）
- ・セミナーの開催や輸出先のマーケット・規制・検疫などの情報提供（ジェトロ）
- ・セミナーの開催やビジネス展開に向けた支援（日本政策金融公庫）
- ・「盛岡市６次産業化等スタートアップ支援事業」による助成（市）
- ・フォーラムやセミナーの開催（盛岡市農業振興連絡協議会）
- ・経営所得安定対策等交付金（産地交付金）を活用した輸出用米の取組に対する助成（盛岡市農業再生協議会・玉山地域農業再生協議会）



農政フォーラム2019
（GAPに関するパネルトーク）



ジェトロ食品輸出商談会in岩手

基本方針２ 姉妹都市、友好都市などを突破口とした積極的な販路開拓

「いわて国際戦略ビジョン」の基本戦略を基本としながら、市の姉妹都市であるカナダのビクトリア市や、友好都市である台湾の花蓮市などを同国（地域）への輸出の突破口としながら、ＪＡなどの関係団体と連携したトップセールスやプロモーション活動などを行い、海外市場への販路開拓に取り組みます。

また、近年の外国人観光客の増加や、ホストタウンの取組といった機会を確実に捉えて、盛岡産農畜産物の海外需要を積極的に取り込みながら、盛岡産農畜産物のブランド力向上と海外市場への販路拡大に取り組みます。

■ 主な取組

- ・カナダや台湾などへのトップセールスやプロモーション活動（市）
- ・外国人観光客や、ホストタウンの取組を捉えた効果的なプロモーション活動（市）



盛岡りんごフェアイン花蓮



ラグビーナミビア代表歓迎レセプション

基本方針３ 盛岡広域農畜産物の強みを結集した取組の推進

盛岡広域各市町やＪＡと連携しながら、各市町の農畜産物の「強み」を結集し、輸出品目の拡大など、継続的・安定的な輸出に向けた取組を推進します。取組の推進に当たっては、現在、６次産業化の推進などに取り組んでいる食農推進協議会において進めます。

■ 主な取組

- ・輸出に関する情報共有と継続的・安定的な輸出に向けた取組の推進（食農推進協議会）

盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針（ロードマップ）

目指す姿の実現に向けて、生産基盤の強化などの様々な農業施策を実施しながら、大きく3つのフェーズに分けて、段階的に取組を推進。

フェーズ 1

2020～2022年度（3 か年）

- 関係団体との連携強化
- 生産者の意欲喚起
- 輸出に向けた機運醸成へ

基本方針 1 関係団体と連携した幅広い輸出支援

基本方針 2 姉妹都市、友好都市などを突破口とした積極的な販路開拓

基本方針 3 盛岡広域農畜産物の強みを結集した取組の推進

フェーズ 2

2023, 2024年度（2 か年）

- 輸出に取り組む生産者の増加へ
- 供給・流通体制の検討
- 戦略の策定

フェーズ 3

2025, 2026年度（2 か年）

- 戦略の推進
- 継続的・安定的な輸出を促進
- 生産者の所得向上へ

強い農業の確立

- | | | |
|------------------|---------------------|--------------------|
| ・ 生産基盤の強化 | ・ 農地の利用集積、集約化 | ・ 優良農地の確保 |
| ・ 荒廃農地の発生抑制、再生利用 | ・ 意欲と能力のある農業者の育成、確保 | ・ 新規就農者の確保 |
| ・ スマート農業の導入、推進 | ・ G A P の導入 | ・ 6 次産業化、異業種間交流の推進 |
| ・ 有害鳥獣対策 | ・ 高品質化、更なるブランドの確立 | ・ ニーズに対応した生産、産地形成 |